

## 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

### 気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

## 目次

- ・用語解説  
「COP、MOP、COP/MOP1とは」・・・P.1
- ・団体会員紹介  
「北山の自然と文化をまもる会」・・・P.2
- ・温暖化の影響・こんなことできる・・・P.3
- ・省エネルギー取り組みの紹介  
本の紹介・ボランティアの声・・・P.4

# 温暖化防止

# ストリート

街角

道

KIKO NETWORK 気候ネットワーク

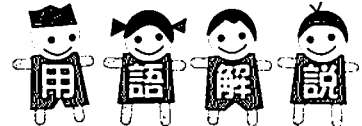
気候ネットワークの会員同志のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

## 第10号

2004.11.1

よく聞くけど

「ん？」何だったかなーっと思う



## 用語 : COP、MOP、COP/MOP1とは

COP3は当たり前前の言葉として使われていますが、京都議定書発効後はCOP/MOPと言う会議が開かれることとなります。

COPはConference of the Partiesの略称で、国連気候変動枠組条約を批准している国が参加する締約国会議のことです。温暖化問題に限らず、多くの国際条約の中で、その加盟国が物事を決定するための最高決定機関として設置されています。条約（UNFCCC）には他にもさまざまな協議の場がありますが、決定はCOPでしか行われません。そのため温暖化交渉においてもCOPは非常に重要な意味（役割）を持っています。

MOPとはMeeting of the Partiesの略称で、京都議定書が発効されて以降、開催される「京都議定書に関する」締約国会議のことで、京都議定書に批准した国がこれに参加します。MOPは京都議定書の発効した後にCOPと併せて開催されるため、来年早々に発効した場合、2005年に開催される「COP11」が、COP/MOP1になります。

気候変動問題での

このポイント!

**COP**とは  
気候変動枠組条約の締約国会議のことです。

**MOP**とは  
京都議定書の締約国会議のことです。

# 北山の自然と文化をまもる会

気候ネットワークの団体会員の紹介です。



榎原義道さん

今回は、京都の北山で活動している、『北山の自然と文化をまもる会』の紹介です。代表幹事の榎原さんから紹介していただきました。

## 「進行する地球温暖化」を追い続けて9年

北山の自然と文化をまもる会は、丹波広域基幹林道（京都府が、日吉町から京都市まで、北山の頂上部で尾根に沿って建設を進めていた林道で、北山の峠や自然環境の破壊が大きな問題になった）の建設問題で、1992年に結成されました。1996年以降、身近で進行する日本温暖化の調査研究を進めながら、活動を進めてきました。気候ネットワークの12月集会では「進行する日本温暖化」分科会で、昆虫や植生、海洋生物の変化、渡り鳥の飛来や病気の拡大、食料生産への影響などのテーマについて、会をコーディネートしてきました。また、身近な現象や、研究成果を収集し、市民にわかりやすく伝えるツールづくりやセミナー開催などにも協力してきました。



調査の様子①

## 「兆候」は、地球温暖化の実被害へ拡大

ここ数年、京都北山では「ブナの異変」や「カシノナガキクイムシによるナラ枯れの拡大」が大きな問題になっています。ブナは、昨年度は幸い8年ぶりに結実しました。ブナの実の異常は、年平均気温12.5度の自然環境に適応した生理的リズムが地球温暖化で乱され、開花はするが結実にいたらない、こうした地球温暖化にかかわる問題ではないかと考えています。



ナラ枯れの様子②

ナラ枯れは、日本では1950年代（兵庫県

城崎）から起こってきましたが、1980年代以降は、被害が10年を経ても終息せず、さらに拡大の傾向さえ強めており、新たに問題視されています。被害は、日本海側の各府県（山形から島根まで）に、京都府下では1991年旧久美浜町を皮切りに、現在、京北町、美山町から京都市内に入りつつあります。「芦生原生林」として知られる京大芦生研究林でも2000年に被害が発生して、すでに1千本以上に枯死が広がっています。

ナラ枯れは、カシ類につくカシノナガキクイムシ（南方系の昆虫）が体につけて運ぶ「ナラ菌」がミズナラ内部で細胞を壊死させ、通水機能が阻害されるため感染樹が枯死にいたりします。私たちは、以前は、ほとんど見つからなかったカシノナガキクイムシ（分布域はニューギニア・ジャワ・インド・台湾、日本が北限）が分布域を広げ、これまで接触できなかったミズナラ（比較的標高の高いところに分布）と接触、耐病性に欠ける（これまで接触がなかったため、こうした資質を獲得していない）ため、大量の枯死現象が広がっているのではないかと考えています。

病気は拡大の様相です。日本の暖温帯を構成する重要な樹種であるナラ類やカシ類、中でもミズナラは京都の山域を考えた場合、極めて重要な樹種です。この枯死は、北山の高度300m以上の「重要な環境要素を失う」ことを意味します。ミズナラに替わる樹木がすぐに立ち現れるものではありません。枯死した林は、水源涵養機能を減退させ、大雨があれば土砂流出の原因になります。ミズナラにその生存基盤を持つミドリシジミなどの蝶は絶滅します。ツキノワグマの里への出没が言われていますが、これも異変の現れの一つです。

進行する現実、地球温暖化という社会的問題に起因する“自然現象”ですが、自然遷移に任せておいたらいいという訳にはいかないのではないのでしょうか。今後、こうした問題への社会的対処—ミズナラの枯死を防ぐ人間による対策が必要になるでしょう。「会」として、こうした活動も進めていこうと考えています。



台風による土砂崩れの様子③

# 日本各地の

# 温暖化の影響

日本各地で見られる、温暖化の兆候や影響に関する情報を掲載していきます。情報をお待ちしています。

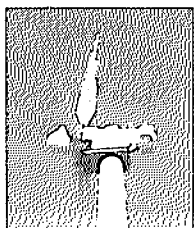
## 台風により増す、風力発電のリスク

(四登・まとめ 田岡陽介)

今夏の台風による影響は日本列島の各地で甚大な被害をもたらしました。今後温暖化が進むことでますます増大することが予測されます。このような台風の被害は、風力発電にも大きな影響をもたらしています。

### ●愛媛県瀬戸町

愛媛県瀬戸町のウィンドファーム(三菱重工1,000kW×11基)では、1機がローターと発電機のカバーが破損し、残る10機全てにローターカバーの破損が見られた(既に修復作業は完了している)。また、同町が農業公園に設置している100kWの風力発電でも、ブレード部分の破損と発電機カバーの大破が確認された。(台風16号による被害)



ブレードが破損した瀬戸町の風車

### ●宮崎県北方町

宮崎県北方町にあるETOランドのシンボル風車(Lagerwey750kW×1基)は、町によれば風速60メートルまで記録できる風速計が壊れ、さらにブレードと発電機カバーに亀裂が入ったとのこと。(台風16号による被害)

### ●沖縄県宮古地方

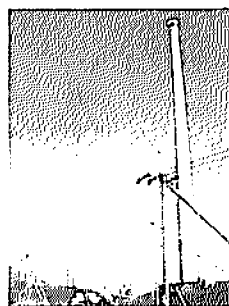
昨年、9月10日から11日にかけて沖縄県宮古地方を直撃した台風14号は、宮古島に設置されている風力発電7機すべてにタワー倒壊、ブレード折損といった大きな被害を与えた。

### ●高知県大豊町、野市町、南宮ヶ峰

高知県企業局所有の大豊風力発電所(Lagerwey600kW×2基)では1号機発電機のカバーに亀裂が入り、2号機のカバーの前面が大破し発電機も破損した。同じく企業局所有の野市(NEG-Micon250kW×1基)、南宮ヶ峰(Vestas750kW×2基)の両風力発電所では発電機のカバーにずれが生じた。(台風16号による被害)

### ●高知県橋原町

四国カルスト(標高1,300m地点)にある橋原町(高知県)所有の風力発電(Vestas600kW×2基)は、発電機カバーの大破およびブレード先端部分の破損が見られた。橋原町ではこの修理に約1億3,000万円が必要で、そのうち半額が保険の適用範囲とのこと。また、風力発電機の修理には海外からエンジニアを呼ぶため長期間を必要とする。



破損し羽根を降ろした橋原町の風車

2004年3月時点で、国内には735基の大型の風力発電が導入されており、この多くは外国製です。今後、勢力の増す台風の通り道となる可能性の大きい日本において、風力発電を普及させていくためには、台風を始めとする日本の気候風土に適した風力発電機の開発と共に、その影響の緩和のために一刻も早い温暖化対策の促進が求められます。

(ここで紹介しました例は台風被害の一部です。)



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

## 今回のテーマは『ペレットストーブ』



これまで有効利用されることが少なかった木質バイオマス。今、その木質バイオマスが注目されています。今回は、身近にできる木質バイオマスの利用として、ペレットストーブをご紹介します。

薪や炭といった木質バイオマスは、木を伐っても再び木が育てば、大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し固定化するため持続的に利用できます。「街中に住んでいるため煙が気になる」、「火を起こすのが手間」という人は、ペレットストーブを利用してはいかがでしょうか。ペレットとはおが屑などを粉碎し、直径数ミリ~1cm程度に固めた固形燃料です。燃料の自動供給・自動調節ができるため、灯油ストーブと同じように気軽に利用でき、煙もほとんど出ません。近年で

は国産のペレットストーブ開発も盛んです。ペレットストーブには様々な種類のものがあり、設置の際にエアコンの排気口を広げるだけでよいもの、電気を使わないもの、お湯が沸かせるもの、ケーキが焼けるものなどがあります。

まずは自分の家の近くにペレット工場があるか、ペレットの送料はいくらか、自治体によるペレットストーブ購入の補助金があるか、などを調べて見ませんか。

薪く炭くKYOTO 副代表 成田真澄

※現在、販売されているペレットストーブ(国内産)の販売価格は約15~25万円です(設置費別)。

このコーナーでは、気候ネットワークのプロジェクトや研究会、キャンペーンなどの紹介をしていきます。

## 気候ネットワークの活動紹介



消費者が省エネラベルを見ている様子（京都にて）

### 「三地域から全国へ、省エネラベルの取り組み！」



省エネラベル

この秋から札幌、大阪、高知において、家電製品の省エネ性能を5段階で表示し、さらに購入価格に10年間の電力消費量相当の電気料金を加えたトータルコストを表示する省エネラベルの取り組みがスタートしました。この三地域での取り組みは、気候ネットワークが環境省の委託を受けて実施するもので、各地のNGOが地域の事業者、自治体と連携して省エネラベルキャンペーンを展開します。札幌では北海道グリーンファ

ンドが、大阪ではCASAが、高知では気候ネットワーク高知がそれぞれに大きな役割を果たしています。今回の「平成16年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業」では、こうした取り組みの経緯をまとめ、ノウハウのマニュアル化を行うことになっています。地域発・省エネラベルの取り組みが全国に広がると同時に地域の特性に合った省エネ製品普及の仕組みづくりが期待できるのではないのでしょうか。

## 本の紹介

おすすめの本の紹介です。

紹介者：岩田まり（京都大学、気候ネットワークボランティア）

### 京都議定書の国際制度 -地球温暖化交渉の到達点-

編：高村ゆかり、亀山康子 出版社：信山社出版 2002年6月発行

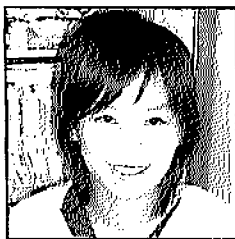
この本のお勧めどころは、第一に温暖化を巡る国際交渉について、交渉経緯と論点がとてもよくまとまっている事です。第1部では、1980年代からCOP7までの経緯を丹念に追っており、これを読めば気候変動枠組条約と京都議定書について網羅する事ができます。続く第2部では、CDM、シンク



など各論点についてそれぞれ専門家の方々が書いており、どの章も勉強になります。そして第二のお勧めどころは、参考文献の豊富さです。巻末に時系列で載っており、これから更に勉強したい人にとって、とても便利です。複雑な国際交渉を分かりやすく、同時に深く解説している、必読の一冊です。

<本体4,095円（税込） 382ページ>

## ボランティアの声



気候ネットワークではたくさんのボランティアと一緒に活動しています。そのボランティアからのコメント！

### 東京ボランティア 楠侑利子さん

青山学院大学3年の楠侑利子です。今年の2月頃から東京事務所でお世話になっています。ボランティアは初めての経験なので始めは戸惑いや不安もありましたが、今では楽しく参加させてもらっています。ボランティア活動の中では、授業やメディアからは得られない知識を得る事ができてとても勉強になります。今後多少でも頻繁に活動に参加して、さまざまなことに挑戦して学んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

## 編集後記

ロシアで京都議定書批准が閣議決定された日、事務所で祝杯をあげました。来年早々にも議定書が発効されることになりました。いままで、ロシア政府には何度も期待を裏切られてきましたが、多くの人々が粘り強く取り組んだことが結実したのだらうと思います。私も、前向きに粘り強く取り組んでいく決意を新たにしました。

(マサル)



### 特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田尊海 / 事務局長：田浦健明

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」10号  
2004年11月1日発行（隔月1日発行）  
編集・DTP：豊田昭介・中野大

京都事務所（本部）  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305  
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012  
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F  
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463  
E-mail：kikotko@jca.apc.org

当紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、電力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）  
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）